

第5回多面的評価指標開発研究会 挨拶 H30.9月25日

教育担当理事をしております奥田一雄です。この4月から前任の藤田先生を引き継がせていただいております。宜しくお願いいたします。

本日、第5回目となる多面的評価指標開発研究会を始めるにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

まずは、ご多忙にもかかわらず、学外からお越しいただいている本研究会のメンバーの方々にお礼を申し上げます。

一昨年度平成28年度から本学は文科省の大学教育再生加速プログラム、略してAPと呼んでいますが、これに採択されました。テーマは「卒業時における質保証の取組の強化」です。スタートから2年目の昨年平成29年度に同プログラムの中間評価が実施されました。その結果、本学は最高レベルの「S」評価を受け、当初計画を越えた取組状況であると認められたところです。

本学のAP事業には、高大接続改革を推進する取り組みが含まれております。その具体的な取り組み内容として、1つは、本学が育成する人材の能力をどのような指標で測定したらよいかについて研究することです。2つ目に、そのような指標を用いて実際にどのように学生の能力を評価したらよいかを研究することです。これら2つの課題を研究することが、本、多面的評価指標開発研究会の目的であると理解しております。

これまでに4回にわたって多面的評価指標開発研究会が開催されてきています。

1回目は授業参観を通して学生の振る舞いの評価、プレゼンテーションの評価方法について議論いただきました。2回目はセルフアセスメントシートの評価指標について、3回目はパフォーマンス評価について、4回目は教員には学生のマネージャーとしての教育力が求められるという議論をいただきました。

本日5回目となる本研究会のテーマは、「能力の自己評価と他者評価」となっております。何卒、忌憚ないご意見を多数いただき、充実した議論を展開していただければ幸いに思います。

ありがとうございました。